



學

術

鐵道の話 (承前)

菊亭

さて茲には車輛の起源沿革に就て一言申上げます車輛と申しましても機關車と其他の車とに區別して申上げましたかた記述上便利でありますから、此區別に従ひ最初に貨車に就て次に機關車に就て申上げます、客車、手荷物車、郵便車の如きは鐵道の起源と併せて申上げるはと古く用ひられたものでありませぬから、此等の種類は略しまし

て貨車のこのみ申します、

貨車の方は何時頃より用ひられたかはチヨット

穿鑿がといきませぬが、前にも申上げました通り

木道の出來た時分には馬車に用ひた車を其儘木道

上を運轉したものとかもはれます、木道が出來ま

してからは従前の如くデコボコした道路を運轉す

るに比すれば自由に抵抗なく車が轉輾しましたか

ら運送する人も慾が出來して車體を大きくして一

度に澤山の石炭を運搬せんと致しました、然るに

レイノルズといふ人が鑄鐵製の軌條を製造せし以

後は、木道又は鐵張道の時の如く軌條を直接に土

面に置かずして鑄鐵製の軌條を長さ十五呎毎に之

と交叉して横に枕木を入れて軌條を支へさせて軌

條を土面より離すことにしましたから、大なる車

輻に石炭を満載して其軌條上を運轉すれば折々軌

條が重量に堪へずして破損することが起り、た、依てこれではならぬといふので軌條に改良を施さんとすると同時に車もまた改良せんとて實際事に當るところの技師連中が工夫の結果、車體をズット小さくして軌條の受ける重量を少なくしました、併しそれでは一度に澤山石炭を運搬するところが出来ぬからその小さき車を何輛も連結して運送することになりました、これが今日見るところの列車の起源であります誠に譯もないことのやうでありますが此の改良といふ者は大發明といはなければなりません、これより後にありてはいろいろ貨車に就ての改良、新發明もありませんが今申した大改良の如く取出て、申上げることにはありません、

次に機關車の出来ましたのはどういふ譯かとい

ふに馬や牛の力をかりてやるやうではとても充分でないといふより發明を促したことは勿論でありますけれども、例のワットの蒸汽力に就ての大發明は機關車の發明に與りて大に力ありといつてよろしいとおもひます、鐵道の線路や貨車は從來ありたるものに改良を加へた結果發明も致しましたが、機關車は之とは少し趣を異にしたもので曾て世上に例のないものを造り出したものですから無理な言葉ではありますませんが根本よりの發明とでもいつてよろしいとおもひます、千八百十八年頃英國にてダーリントンとストットントンとの間に鐵道を敷設せんとするに方り此鐵道には是非とも一種異なりたる動力を有する機械を工夫して運送上に大改良を行はんとことをおもひ立ちて技師間の大問題となりました、何人も大發明の名譽を博してヤン

ヤと譽められやうとして苦辛のほどは容易ならぬ
 ことであつたとつたへられて居ります、當時の鐵
 道に従事して居ましたトレヴィンシツクといふ人は
 早く設計を立て、製造しました、此機關車は随分
 不完全の點も有りましたが機關車創造の名譽はこの
 人に與へなければなりません、その後はかの有名
 なるジョージ、ステフェンソンが更に機關車を製
 造いたしました、此機關車はトレヴィンシツクの機
 關車の不完全なる點を改良したものであります、
 寧ろ新に發明したものといつてもよろしいのであ
 ります、千八百二十六年頃英國に於てリヴァー
 プール及マンチエスター間に鐵道を敷設するとき
 今度はなんでも完全なる機關車を用ひやうとかも
 ひまして發明を促がしましたが、只ではとても左
 程の效能もあるまいといふところから懸賞の條件

に合格した機關車を製造したものは五百磅の賞
 金を與へんことを定めて之を世上に公布しまし
 た、サアそうなると地獄の道も金次第と申す通り
 金といふものはおそろしいもので我こそはその賞
 金を得んものと意氣込みも容易ならぬことだそう
 でした、さて締切期日となるといろ／＼の設計で
 出來た機關車が出て來ましたそこで千八百二十九
 九年十一月八日より十四日まで一週間試運転を致
 して優劣を判定した結果、終に四つの機關車に賞
 を與へましたがジョージ、ステフェンソンの製造
 に係る機關車はその中の一等でリヴァープール及
 マンチエスター間の鐵道の開業せらるゝときに採
 用せらるゝこととなりましたまことに名譽あるこ
 とであります、此機關車はその名をロケットと
 命じたもので今に英國に保存してあるといふこと

であります、我國の鐵道には客車にても貨車にても將又機關車にてもロケットの如く固有の名を命じたものはありませぬが外國にては現今にても命名は盛に行はれて居ります、船には我國にても秀吉の命じた日本丸を始めとして昔より命名して居りますから、どうか鐵道の車輛にも一新例を開きたいものとおもひます、軍艦には初瀬、富士、曙など、優美なる名を命じて居ります、鐵道車輛にも何とか命名したらは殺風景なる事業も名聞だけでも少し優美になるであらうとおもひます、餘計のことなからかもひついた次第を申上げおさます、

以上述べましたところは今日見るところの機關車にて他の車輛を連結したものを牽引して一つの運送事業をなすに足るだけに發達するまでの線路

四十一
及車輛の起源沿革であります、勿論此時代に於ては鐵道の事業は石炭の運送を主としたものでありますから客車といふものは未だ發達して居りませぬ時と御承知を願ひます
(未完)

夢のはなし (ついで)

東 基 吉

前號では、睡眠のことに、夢を見る時のこと、夢の原因などの事に付いて記して見たが、今度は大體
夢とは如何なるものかといふとに付いて書いて見たいと思ふ。考へて見ると夢の世界ほど不思議なものはない。現實の世の中では到底出来ないことが、夢の世界では譯もなく出来る。吾々は子供